

Yamakado News Letter



北部湿原に降り積もる雪 12/17



雪の重みで枝がしなるミヤマウメモドキ 12/17



Photo Fujimoto



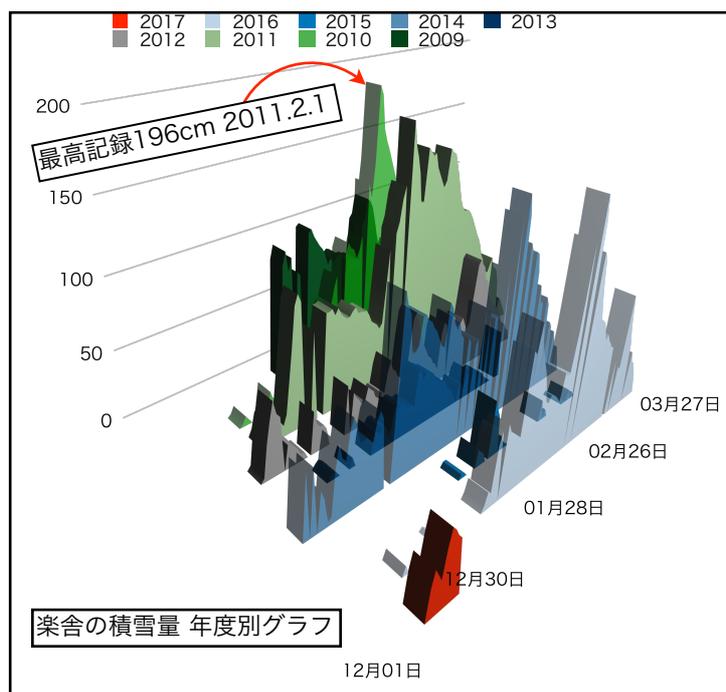
Photo Saji

圧雪による変形を避けるためトタンを撤収する会員 12/17

雪の季節の到来

昨年度、一昨年度と雪の降り始めは1月下旬だったので、1月でも木道敷設やヒノキ間伐など外仕事を行なっていました。ところが今年は12月13日から積もり始めました。湿原に設置した防獣用のトタン波板が雪圧で変形し、破損してしまうので、12月度の保全作業はトタンの撤収作業を行いました。

湿原周辺では防獣対策の効果が出ているのか、年々シカやイノシシといった野生動物の気配を感じにくく、今年も随分少ないように思っていました。ところが、雪が積もるとシカ、ウサギ、タヌキ、キツネ、テンなど色々な動物の足跡が現れ、私たちが見えない時間帯に頻繁に湿原に出没しているのだなあ、ということがよくわかります。



県協働事業の経過報告

今年度契約している滋賀県との協働事業では、炭焼きなどの利用がなくなって50年以上放置されたアカガシ林の整備作業があります。詳細は先月号のニュースレターをご覧くださいなのですが、株立ちしたアカガシから残す木を一本だけ選び、あとは全て伐倒する作業です。伐倒したアカガシは階段部材として使える部分を切り出し、12月2日の保全作業で林床整備や階段補修場所への運搬を行いました。その後順次階段整備も行いました。

計画では間伐本数を100本としていますが、12月10日現在で93本の伐倒ができました。その後雪が積もり作業が中断していますが、今年度中には計画が達成できそうな手応えです。



Photo Fujimoto

枝が不規則にのびていて伐倒が難しいアカガシ間伐作業



Photo Saji

林床整備と階段部材運搬 12/2



Photo Saji

アカガシ材を使った階段改修 12/12

土砂流出量調査の 回収・仕分け作業が終了

今年度は琵琶湖環境科学研究センターの指導と協力を得て、土砂流出量調査を行いました。①鬱蒼と茂ったアカガシ林の下層植生がほとんどない林床、②2011年に皆伐を行い、その後ネットで囲ってシカの食圧がない林床、③同じく2011年に皆伐を行い、その後防獣柵を設けず放置した林床、この植生環境の違う3カ所を選定。夏に土砂受け箱を各5個ずつ設置し、雪が降る直前まで、ひと月毎に土砂を回収しました。

回収した土砂は90袋分。第一回目の15袋は試験的に計量が済んでおり、残りの75袋をセンターへ配送。予めセンターで土砂の水分を飛ばすための強制乾燥をしてもらいました。その後、会員が出向いてその乾燥した試料から土砂とリター（落ち葉や虫

の死骸などの有機物）とを分別し、土砂だけを抽出しました。これが老眼には辛い作業。そして、乾燥した純粋な土砂重量を計測しました。

まだ全ての土砂試料の計測は終わっていませんが、出揃ったところで、月別、また時間別の雨量のデータと合わせて、雨量と植生と土砂流出との関係で、なんならの傾向がつかめないか考察をします。

この調査の結果は3月の活動報告会、または報告集にて報告できればと考えています。



ひと月毎の土砂回収 6回x15箱



土砂受け箱を作成 5/6



箱上50cm四方の植生調査 5/29



土砂とリターの分離作業 12/15